

ISO/TC 61(プラスチック) 第 68 回年次会議開催

1. はじめに

第 68 回 ISO/TC61 年次会議が、9 月 23 日(月)～27 日(金)の 5 日間にわたり、中国の成都のインターコンチネンタル成都グローバルセンター(Inter-Continental Chengdu Global Center)にて開催された。

会議には 20 カ国、約 300 名が参加し、昨年の日本開催の 23 カ国、約 310 名とほぼ同等であった。日本からは、70 名が参加した。

2. TC61 の構成・活動状況

ISO/TC61 は、表 1 に示すように傘下に 11 の SC がある。TC61 及び各 SC の傘下に WG があり、現在全部で 53 の WG が活動している。

ISO/TC61 の幹事国は中国、議長国はドイツであり、参加 P-メンバーは 31 カ国、O-メンバーは 38 カ国となっている。保有規格数は 685 あり、大きな TC を形成している。

この中で、日本は 3 つの SC の国際幹事及び国際議長を受け持っており、活発に規格開発を主導している。

TC61 年次会議は毎年 1 回ホスト国持ち回りで開催される。TC61 にとって、年次会議は一大イベントである。1 週間(月曜～金曜)の会議期間において、TC61 及び全ての SC の全体会議、並びに全 WG のほとんどの WG の会議が開催される。WG では、新規提案や投票結果の審議が行われ、WG の上位にある SC または TC におい

表 1 TC61 の構成 (TC61: 幹事国 CN, 議長 DE)

| SC | 幹事国 | 議長 | タイトル | 活動中 WG 数 |
|------|-----|----|--------------|----------|
| TC61 | CN | DE | プラスチック | 1 |
| SC 1 | GB | GB | 用語 | 2 |
| SC 2 | KP | KR | 機械的性質 | 7 |
| SC 4 | GB | GB | 燃焼挙動 | 5 |
| SC 5 | DE | DE | 物理・化学的性質 | 4 |
| SC 6 | DE | DE | 耐老化, 薬品, 環境性 | 3 |
| SC 9 | KR | KR | 熱可塑性プラスチック | 12 |
| SC10 | CA | US | 発泡プラスチック | 4 |
| SC11 | JP | JP | 製品 | 4 |
| SC12 | JP | JP | 熱硬化性材料 | 3 |
| SC13 | JP | JP | 複合材料及び強化繊維 | 3 |
| SC14 | DE | DE | 環境側面 | 5 |

US:アメリカ, CN:中国, GB:英国, DE:ドイツ, JP:日本, CA:カナダ, KR:韓国

て WG での審議結果が承認されることにより、規格開発の段階を進捗させることができる。

TC61 年次会議では、1 週間で TC61 関連の多くの会議が開催されるので、各メンバーは必要に応じて、種々の会議に出席し、効率的に規格開発を進めることができる。

3. 会議概要

TC61 全体会議の 1 回目は最初の会議として月曜の朝に開催され、2 回目は最終の会議として金曜日の午後開催された。2 回目の TC61 全体会議では、各 SC 議長による SC の審議概要の報告及び TC61 会議の決議事項の説明等が行われた。

また、通常の会議の他に"リーダーズ会議"(TC61、各 SC の議長、幹事及び各国代表が参加)及び、"バイオプラスチックシンポジウム"が開催された。

メンバー間の懇親を目的としたパーティーとしてウエルカムパーティー(9/23)、リーダーズディナー(9/24)、バンケット(9/25)が開催された。

4. トピックス

1) 2019 MacFarlane Award の受賞

毎年、年次会議の時に、TC61 に非常に貢献したメンバー1 名に"MacFarlane Award" (2 年前までは"TC61 Outstanding Service Award"と呼ばれていた) を授けることとなっている。今年は SC14/WG3 (バイオベースプラスチック) のコンビナーであるアメリカの Ramani Narayan 教授が受賞した。

2) TC61 議長の退任

TC61 議長の Dr Hubert Simon は今年で TC61 の議長在任期間が 9 年目となり、9 年ルール (議長在任期間は最高 9 年まで許される) により、今年末で退任することとなっている。今回の成都会議では、次期議長の情報はなかった。

3) TC61 年次国際会議の日本開催

リーダーズ会議にて、日本より「TC61 年次会議を 8 年に 1 回定期的に日本で開催することを計画し、開催費用の積立を開始した。次回は 2026 年の開催を予定している。」とアナウンスし、歓迎された。このアナウンスに触発されて、他の国も定期的な会議開催を申し出てくれることが期待される。これにより、現行の会議開催国がなかなか決まらない状況を改善できると期待される。

4) 2020 年以降の TC61 年次国際会議の開催国

2020 年以降の会議開催国は決まっていないので、TC61 全体会議では、TC61 議長からは、重ねて各国デリゲートに対してホスト国の申し出の働きかけがあった。デリゲートからは、「複数の国が共同で会議開催する」、「経済活動が活発な国が頻度高く会議開催するように決める」等の意見が出された。

(以上)